



《問い合わせ》

上野図書館 ☎ 21-6868 FAX 21-8999
 いがまち図書室 (いがまち公民館内) ☎ 45-9122
 島ヶ原図書室 (島ヶ原会館内) ☎ 59-2291
 阿山図書室 (あやま文化センター内) ☎ 43-0154
 大山田図書室 (大山田公民館内) ☎ 47-1175
 青山図書室 (青山公民館内) ☎ 52-1110

司書のおすすめ



■絵本

『きんたろうようちえん』
 やぎ たみこ／作
 子どもたちがロープウェイで通う山の上の幼稚園。園長の きんたろうせんせいは、とても大きくて、力もちで、いろいろな動物の言葉が話せます。ゆかいな幼稚園の、楽しい一日を描いた絵本です。

■一般書

『世界でいちばん幸せな男』
 101歳、アウシュヴィッツ生存者が語る美しい人生の見つけ方』
 エディ ジェイク／著



■児童書

『無駄なマシーンを発明しよう!』
 藤原 麻里菜／著



■一般書

『休息の科学』
 クラウディア ハモンド／著
 『大和和紀 総特集』
 河出書房新社
 『全国85劇場 ミニシアターのある街へ。』
 JTB パブリッシング

■児童書

『ゆるゆるクラゲ・プランクトン図鑑』
 和音／まんが
 『「イミがわからない…」がなくなる!』
 こども読解力 齋藤 孝／著
 『キケンな修学旅行』
 ジェニファー キリック／作

■絵本

『しあわせをさがしているきみに』
 エヴァ イーランド／作
 『ことりのおまじない』
 おおなり 修司／文、丸山 誠司／絵
 『おまたせまちあわせ』
 宮野 聡子／作・絵

図書館(室)からのお知らせ

◆郷土の歴史夜咄会

【とき】

11月19日(金) 午後6時～7時30分

【ところ】

ハイトピア伊賀 5階多目的大研修室

【テーマ】

文武両道の漢学者 町井 治(台水)

【講師】

地域誌「伊賀百筆」編集長 北出 楯夫さん
 ※ご来場の際は、上野図書館駐車場または、市営上野公園第3駐車場(午後5時以降無料)をご利用ください。



11月の読み聞かせ

絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどをします。(30分～1時間程度)

とき	ところ	催物(読み手)
13日(土) 10:30～	大山田図書室	ぬいぐるみとおはなし会&おとまり会(きらきら)
	上野図書館	おはなしの会
16日(火) 10:30～	大山田図書室	あかちゃんたいむ・ミニおはなし会
17日(水) 10:30～	上野図書館	えほんの森(よもよも)
19日(金) 10:00～	いがまち複合施設小ホール(旧ふるさと会館いが)	絵本の時間(お話の国アリス)
21日(日) 10:30～	阿山図書室	読み聞かせの会(はあと&はあと)
24日(水) 10:30～	上野図書館	おひざでだっこのおはなし会
25日(木) 10:30～	青山図書室	おはなしなあに?
27日(土) 10:30～	上野図書館	おはなしの会

※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、参加者の人数を制限しています。



詳しい情報はこちら

伊賀市の文化財 137

市指定有形文化財

(書跡・典籍・古文書)

六角承禎書状

六角氏は、観音寺城（滋賀県近江八幡市）を居城として、室町時代から戦国時代にかけて近江国の南部に勢力を振るった戦国大名です。その15代当主六角承禎（義賢）とその子義治と、伊賀国の土豪・地侍との関わりを示す「六角承禎書状」など6点を市の文化財に指定しています（市所蔵）。

六角承禎は、永禄11（1568）年、京都へ上洛する織田信長の軍勢との戦いに敗れ、観音寺城を追われます。この時、伊賀国韮田の土豪、山内氏は、音羽に逃れる承禎の通行を保障するなど尽力しました。承禎はこのことについて「あいわするべからず候」と感謝の気持ちを記しています。

その後、六角氏は石部城（滋賀県湖南市）を拠点として織田氏に抵抗を続け、山内氏も六角氏を支えました。天正元（1573）年には山内氏が六角氏の石部城籠城に加わり奮戦し、それにより領地を増やすことを約束した承禎の書状もあります。

天正2（1574）年、信楽で、六角氏に従い戦った山内宗次が討死します。宗次の父宗俊に宛てた承禎の書状には「大変不憫のこと、心中

お察しします。この御恩は今後決して忘れません。」としたためています。

以後、甲賀郡は織田氏の勢力下になり、伊賀国も、やがて天正9（1581）年の織田信長による伊賀国攻め（天正伊賀の乱）により、大きな被害を受けることになります。

六角氏の書状は、いずれも近世に作成された写しと考えられています。これらからは、戦国時代の終わりごろ、伊賀国北部の土豪・地侍が織田信長の侵攻という時代の荒波にあらがう姿をうかがうことができます。

なお、六角氏関係の古文書は、現在進めている「デジタルミュージアム秘蔵の国伊賀」に掲載する予定です。



山内氏の奮闘に感謝し領地加増を記した六角承禎書状写

文化財課

☎ 22・9678 FAX 22・9667

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

高齢化社会と認知症 ーいがっこ給食センター元気ー

どんな人でも、年齢を重ねるにつれて体力や記憶力などが低下し、若いときには苦勞をしなくてもできていたことが徐々に難しくなっていきます。

中でも記憶力の低下が顕著に現れる一つの要因として、認知症があります。認知症は誰にも起こりうる脳の病気で、65歳以上の6人に1人が発症するといわれています。

きちんと医療機関で受診することや、周囲の適切なサポート、接し方によって、病気の改善や進行を遅らせるなどの可能性が高くなりますが、認知症の人の中には、自分で自分の状態を認識し、不安を感じて苦しむケースも多く見られます。また、家族や周囲でサポートする人が、介護やサポートは自分たちだけでしなければいけないとの思いから、悩みを抱え込み、強いストレスを感じているケースも少なくありません。

しかし、私はこの問題は当人や周りで直接的にサ

ポートする人だけの話ではないと思います。直接介護のサポートをすることはできなくても、介護に疲れている様子の人が身近でいた場合にはぜひ声をかけて、話を聞いてあげてください。「〇〇さんの具合は最近いかがですか」という声かけや、ちょっとした会話だけでも、「私の話を聞いてくれる人がいる」という安心感から介護者の心が軽くなることがあります。

今はまだ若いから、健康だから自分には関係ない話だと思う人もいるかもしれませんが、高齢になることは、生きている限り誰一人として避けることのできない問題です。高齢化率が34.8%と他市町と比べても高い伊賀市は、高齢者や認知症の人に対する理解の促進や人権啓発に一層取り組む必要性を感じます。

高齢者・認知症の人に対する理解者が増え、一人ひとりの尊厳がいつまでも大切にされる社会であるように強く願います。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9684 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ